



日本キリスト教保育所同盟 (題字 前理事長・木村 量好)

THE ASSOCIATION OF CHRISTIAN NURSERIES IN JAPAN

事務局 つくし保育園内 〒601-1336 京都市伏見区醍醐柏森町25
発行責任者 理事長 小南 進

「エピソード記述のこと」

大阪聖和保育園 森 本 宮仁子

「エピソード記述っておもしろい」

主任保育士 和 泉 玲 子

大阪聖和保育園では、保育者の資質の向上を図るために、2007年度からエピソード記述に取り組んでいます。エピソード記述とは、事実を客観的に記録する保育記録とは異なり、保育現場で繰り広げられる子どもと保育士のやりとりの中で心に残ったエピソードを、保育者の心情を主体に記述し、自分の保育を振り返ることを目的としたものです。保育現場で日々対応するこどもとのやりとりにおいて、目には見えないこどもとのつながりや、自分の感情の揺れ動きを振り返り、文章に描くことで意識していなかった自分の気持ちや対応の傾向に気づかされるのです。

エピソード記述のことを教えていただいた時、私たちが大切にしている「こどもとの関わり」が共有できるこんな手段があったのかと衝撃を受け、自分の保育を見つめ直す機会が与えられて背筋が伸びる感覚を覚えました。何を描こうかと思い巡らすうち、印象に残っているエピソードが浮かびます。それは日々の保育のなかで突出した出来事ではないのだけれど、何故かその時のことが胸に残っている場面です。書き進めていく中で、その時の自分の感情を反芻し自分の気持ちを第三者的に見ることで、やりとりの表層の向こうにある気持ちや意識が露出してきます。思いもよらなかった気持ち表れ、自分でもびっくり！目から鱗です。

また、私たちの園では、保育者ひとりひとりがエピソードを描き、みんながそれぞれのエピソードを読み、疑問や感想を書いて本人にもどすという方法をとっていますが、その返ってきたコメントによって、もう一歩奥にある気持ちに気づかされることもあります。私の場合がまさしくそうでした。そのエピソードを要約して紹介します。数年前の5月ごろ、年長の男の子との午睡時間のかかわりの一コマです。

(エピソード) (抜粋)

「さぁ、お布団に入ろう。みんな寝るよ」と言葉をかける。それぞれ布団に入ろうとしていた時、A君がうろうろしていた。「A君、寝ようか。トントンしてあげよ」と言うと、「ねるの、いややー」「ねえへん」との返答。「寝なくてもいいからお布団にごろんしよう、ほし組(4歳児)の時も上手にしてたやん」と言うと、いきなり「いややー、ねえへんのじゃー」と大きな声でわめきだし、私に対して蹴飛ばしたり叩いたりしてきた。そのやりとりを数回繰り返し、私もA君も疲れ、「A君、お昼寝、嫌やってんな」と言ってしばらく抱っこした。「寝なくても良いからゴロンしよか?」と言うと「こわいはなしして」と言うので布団に入りお話を始めた。

(考察) (抜粋)

A君がなぜ怒りだしたのかわからなかったが、自分のかかわりを振り返ると、お昼寝をしたくないA君に対して「眠い子の権利もわかって欲しい」「少しでも横になることがA君にとって大切な休息」という私の気持ちがあり、それをA君に押し付けていたと思う。

これが、当初のエピソードと考察です。すると、返ってきたコメントのなかに、以下のような事が書かれているものがありました。

「ほし組の時、上手にしてたやん」という言葉がありますが、本当にそう思っていたのですか？

このコメントに対して、“え？”っと、最初は違和感がありましたが、何故その言葉を投げかけたのかも一度探ってみました。何気なく発した言葉で深い意味はないと思っていたのですが、「A君はお昼寝が苦手、この子を寝かせるには時間がかかって大変」と感じていた自分に気づきはっとしました。このコメントのおかげで、A君の怒りは「上手にしてたなんて思ってもないくせに嘘つくな！」という、私に対しての怒りだったことに気づき、蹴飛ばしたり、叩いたりしたのはこの怒りの現れなのだと理解することができました。

2010年からは園内研修でエピソード記述を深める時間をとり、ひとつのエピソードについて「このときの気持ちは？」「何故そうしたの？」などいっしょに考える時をもっています。発表者にあたると「何をきかれるの？」「どう答えればいいのか？」とドキドキするのですが、いろいろな質問に答え、やりとりする中で、自分の気持ちに向き合い自然と表出していきます。そのことをみんなで共有することがとても大切で、「保育者の資質の向上」につながっていくと思います。子どもの側に「一方的に変わることを要求するのではなく、保育者も自らの課題に気づき、共に成長していく」これが、保育なのだ実感しています。これからも職員間の信頼関係を深め、自己開示できる仲間関係を築き、よりよい保育園となるよう「保育者の資質の向上」を追い求めていきたいと思っています。

「エピソード記述の意義」

以上の文章は、法人の機関誌「共働」に、以前掲載したものです。この文章からもおわかりいただけるとおり、エピソード記述を導入してから、今年で8年目になります。導入の一つのきっかけは、全国私立保育園連盟で、中京大学の鯨岡峻先生が、エピソード記述のおもしろさと大切さを語っておられ、同連盟が出されている「保育通信」にその意義が連載されたことです。「保育の一コマを切り取って書いてみよう。一番見えにくい“自分”が見えるかもしれない」と思いました。早速、職員にも保育通信をコピーして、エピソード記述の意義を伝え、取り組むことにしました。当初は、文章の善し悪しが気になったり、シェアされることにおっくうだったりしたのですが、エピソード検討の意義を評価してくださったのが、金沢市障がい児通園施設「ひまわり教室」で、当時、園長をされていた徳田茂さんでした。徳田さんは「レポート合宿」という名前で、子どもとの対応をレポートに書き込み、みんなで検討するという取り組みをもう30年ほど続けていらっしゃいました。私もその合宿に参加させていただいたりしていたので、保育園での、エピソード検討会にも参加してくださいました。そこで、エピソードを検討することにはとても大切な意味があることを、伝えてくださいました。徳田さんが「ひまわり教室」の職員のために書かれた文章の一部をご紹介します。

「人が生きるのを手伝える者として、身につけていきたい力や態度など」(抜粋)

(前略) 一人ひとりが大切にされる平等な社会の実現を願う者として、私たちは、現在の在り方をきちんと問うてみる必要があります。とりわけ私たちが日頃関わっている障がい者やその家族の人たちに対して、自分がどのような態度を取っているのかを自問することが求められます。人の生きることを手伝える者として、私たちには人権意識、人権感覚を高めるための不断の努力が求められます。自分の関わる人を、かけがえのない命をもった一人の個人として尊重することができないようであれば、私たちは人が生きるのを手伝える仕事から身をひくべきです。(中略)

他の人を的確に理解することはとても難しく、完全に知ることはまず不可能です。その他者理解よりもさらに難しいのが自己理解、自分を知ることです。しかし、他の人がいきるのを手伝おうとする者は、自分の内面にふたをしてはならず、どれほど困難であろうとも、自分という人間を知る努力を怠ってはなりません。いつ

も言っていることですが、自分を見つめることをしない人間が人が生きるのを手伝おうとすると、相手に迷惑をかけてしまいます。(後略) 2012年3月2日 徳田 茂

「自分を知ろうとすることから、始める」

徳田さんの文章は、仲間に向けて書かれたものなので、これだけ読むと、とても厳しい印象を受けるかもしれませんが、私たち保育をする者にとっても、とても重要な内容だと思います。エピソードを書いてみて、みんなでシェアする。この作業がどれだけの力を要することなのか、書くことも、人へ質問をすることも、気づいたことを受け止めることも、その一つ一つに大変な力量が必要となります。

しかし、徳田さんは「エピソード検討は、貴方のことを教えて欲しいという気持ちで聴くもの」と言われます。決して相手をジャッジしたり、批判するためのものではありません。これがまた難しいのですが、そんな風にエピソード検討していくと、書いているうち自分で気づいたり、人から質問されて気がつくという喜びの経験となることもあります。また、子どもや保護者、職員同士でのかかわりが楽しみに変わることも体験、実感してきました。自分を知ろう、受け止めようとする意識が、周囲に変化をもたらします。仲間に不安や心配を話せるようになり、お互いを認め合う関係も育ちます。また、自分が変わることで、課題と感じていた子どもの行動が変わったり、保護者との信頼関係が深まることもあります。子どもや保護者の側に、一方的に変わることを、「教育」として要求するのではなく、保育者自らが、自分の課題に気づき対応を変えていく。その結果として、お互いが成長するということが、保育なのだ実感しています。今後もエピソード記述を活用しながら、みんなと一緒に成長していきたいと願っています。

(付録)「エピソード記述の書き方」(例)

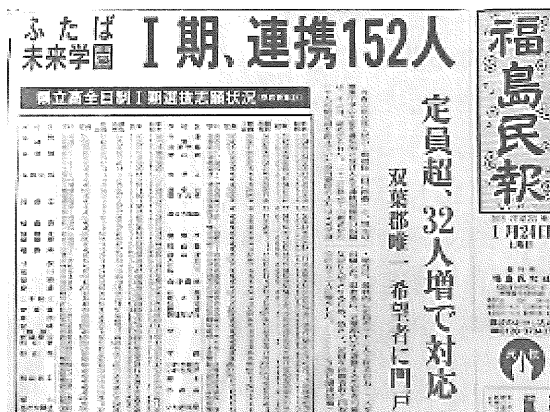
(記述日 年 月 日)	
園名	名まえ
(題名)	★ 必ず付ける (焦点がはっきりすることもある)
(背景)	★ エピソードを理解するために必要と思われる内容を記述する (例) 年齢 生育歴 入園年度 保護者状況 兄弟関係 いつもの様子 ある場面の様子等
(エピソード)	★ 主語・主人公は「私」 ★ 対象児童(保護者・職員)とのやり取りのエピソードを中心に記述する。 ★ なぜそうしたのか、そう思ったのか、その場で感じたことや、思ったこと等も記述する。
(考察)	★ エピソードを書いているうち、気づいた事や、エピソードを客観的に読んで考察したことを記述する。 ★ 「私」について気づいた事や、対象児(者)について気づいたことを記述する。

「私はどのように生きるか」

会津放射能情報センター 代表 片岡輝美

昨年12月発行の「山びこ」に書きました県立中高一貫校「ふたば未来学園高校」のその後です。東京電力福島第一原子力発電所の30km圏内にある広野町に開校される同校の入学願書が締め切られました。定員120名に対し152名が出願。福島県教育委員会は弾力的措置とし、さらに、もともと入学試験は募集以前から行わないとしていましたので、その時点で全員の入学が決定しました。

同高校は双葉郡の「子どもが戻らねば地域は消滅する」との地元の切羽詰まった危機感により構想が始まり、2年後の今年4月に1期生を迎えます。大学進学・スポーツ選手育成コースや工業商業農業の即戦力を育てる実業系コースが設置されます。福島県出身の西田敏行さんや箭内道彦さん、著名人の秋元康さんや林修さんやオリンピック選手ら16名が応援団として来校し直接講義を行います。この応援団



のモットーは「前例なき環境には前例なき教育を」です。この入学希望者数は県教育委員会にとって、予想以上の成果だったと思いますが、無試験入学や募集定員数を大幅に変えることなど、これまで県立高校入学ではあり得ない判断が為されています。並々ならぬ地元復興への思いを感じます。トヨタ自動車CMではビートたけしさんが木村拓哉さんに「福島には未来という名のつく学校が始まるらしい」と一言。福島県復興の応援と聞こえます。

一方、このような声も聞こえてきます、「どうせ、俺たちはふたばに行くんだから、勉強しなくていい」。双葉郡内の県立高校5校は、3・11以降、県内外の高校に間借りをする「サテライト方式」を取ってきました。しかし、ふたば未来学園高校が開校するにあたり、各サテライト校は入学募集を順次止めて休校とし、ふたば未来学園高校に統合されていきます。つまり、いくつかあった高校の選択が狭められ無試験で入学できるために、中学校での学習意欲がなくなっているのです。喜んで入学する子どももいるでしょうが、「どうせ」と言って入学する子どももいるのです。子どもにそのような言葉を言わせる社会は、教育の問い直しが必要なのではないかと思いません。

昨年の暮れ近く、会津放射能情報センターに掛かってきた電話です。「私は3年前、中通りから会津に自主避難をしてきました。小学生の息子がお腹や頭が痛いと言えあらゆる検査をしましたが、原因がわかりません。精神的な要因ではないかと、カウンセリングを受けていますが、とても心配なのです」。原発事故前はとても活発だった子の変化を不安そうに話されました。この母親

東電前行動
東京電力の「自首」を要請



新年と共に、県内では復興の声が響きます。常磐自動車道や国道6号線が開通し、物流や人々の行き来が加速されます。先に書いたように、教育による復興の象徴はふたば未来学園高校の開校でしょう。東京五輪選手合宿を誘致するためにJビレッジも復活し、被災者の苦労は美談となっています。ますます大きくなる復興の掛け声。しかし、その中でも、微かな声は聞こえてきます。会津放射能情報センターは、その声を聞くことができる場所でありたいと願っています。と同時に、この声を聞くべき者たちは私たちだけではなく、原発事故被害を過小評価し再稼働輸出を目論み、国民の人権を木っ端微塵に打ち砕いても罪が問われない国や権力者たちこそ聞くべきだと、怒りと共に思うのです。

原発事故の向こうに見えるのは、かなり厳しい現場です。日々廃炉作業に6千人以上が携わっています。健康と安全が守られることを祈るしか私にはできません。原発事故当事者の悲しみや苦しみも見えてきます。そして、「このままで良いはずがない」と、生命を守るために立ち上がった人々、また事故前から闘い続けてきた人々の姿も見えてきます。

原発事故を経験し、国民の願いや人権を蔑ろにするこの国の課題もより鮮明になってきました。末息子は繰り返し沖縄・辺野古へ向かいます。美しい海が広がる大浦湾に建てられようとしている巨大な米軍基地建設に反対するためカヌーに乗り非暴力闘争に加わっています。海の安全を守るこ



とが任務であるはずの海上保安庁との衝突はますます激しくなり、小さなカヌーは転覆され、一旦溺れさせて身柄を確保、拘束します。キャンプシュワブゲート前でスクラムを組む抗議者は機動隊や警察によってごぼう抜きにされ高齢のオバアたちも倒され怪我しています。

このような時代にいる私たちは今、生き方が問われています。何を見て、どのように考え、行動するのか。他人任せの生き方から自らの生き方を選択することが『命こそ宝』の社会への第一歩だと、私は信じています。

事務局だより



☆ 理事会報告

日本キリスト教保育所同盟理事会が2月16日（月）京都嵐山「花のいえ」においてもたれました。主な決議事項は以下の通りです。

- 1 本年度事業報告、各地区報告、国際交流事業、保育研究会、第56回夏季保育大学、日本キリスト教団 宣教部報告、中間決算などの報告事項を承認した。
- 2 新役員、本部理事、事務局員体制が承認された。
- 3 「日本キリスト教保育所同盟 ミッションステートメント」保育研究会案を承認した。
- 4 次年度事業計画、仮予算などを承認した。
- 5 第57回夏季保育大学計画を承認した。
- 6 第58回 夏季保育大学は、東北地区が担当する。



☆ その他の報告

以下の保育園の加入が承認された。

YMCA東とつか保育園、YMCAつるみ保育園、YMCAとつか保育園、金沢八景YMCA保育園、YMCAたかつ保育園、YMCAオベリン保育園、YMCA山手台保育園アルク、YMCA東かながわ保育園（以上神奈川地区）、松陰おかもと保育園（兵庫地区）、もりの聖愛保育園（東京地区）、もみの木保育園（東京地区）（*加盟園は現在245ヶ園です。）

☆ 今後の主な予定

- * 総 会 2015年5月11日（月）～12日（火） 於. 未定
- * 理 事 会 2015年5月11日（月）～12日（火） 於. 未定
2016年2月15日（月）～16日（火） 於. 未定
- * 新任研修会 2015年5月20日（水）～22日（金） 於. 関西セミナーハウス
- * 中堅保育士研修会 2015年11月11日（水）～13日（金） 於. 東京
- * 園長研修会 2015年5月12日（火） 於. 未定
2015年10月26日（月）～27日（火） 於. 未定
2016年2月16日（火） 於. 未定
- * スキルアップ研修会 2016年1月19日（火）～20日（水） 於. コミュニティ嵯峨野
- * 第57回夏季保育大学
日 時 2015年8月19日（水）～21日（金）
場 所 リーガロイヤルホテル広島
- * バングラデシュの保育を支える会 第19回
日 時 2015年6月7日（日）～15日（月）
訪問地 バングラデシュ国・マイメイシン地区ホビルバリ村

